

チャイムが鳴るよ

—時間をまもって生活しよう—

- 1 学 年 第2学年〔前期〕
2 主題名 時間をまもって生活しよう〔1－(1)〕

3 ねらい

休憩時間に時間いっぱい遊びたい思いをがまんして教室に入る「ぼく」の気持ちを考えることを通して、時間を守ることの大切さに気付き、よりよい生活をしようとする態度を育てる。

4 資料名 「チャイムが鳴るよ」

5 展 開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 休憩時間にしている遊びについて発表する。 ○ 休憩時間に、何をして遊んでいますか。	・ 一輪車 ・ ドッジボール ・ ボール当て	○ 自由に意見を出させることにより、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「チャイムが鳴るよ」を聞いて話し合う。 ○ 「ぼく」は、生活目標の話を聞きながら、どんなことを思ったのでしょうか。 ○ チャイムが鳴ったのに、すぐにやめられなかった「ぼく」は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ◎ 自分の番が来た時、教室に入らなければならない時間になってしまったが、「ぼく」は、どんなことを考えたのでしょうか。 ○ 先生の話聞いて、「ぼく」はどんなことを思っているでしょう。 3 自分の生活を振り返って話し合う。 ○ あなたにも「ぼく」と同じように、気を付けながら生活していることがありますか。	・ 今日からがんばるぞ。 ・ 守らなければ。 ・ チャイムの前に教室に入ろう。 ・ まだぼくの番が来ていない。 ・ みんなもやめてないから。 ・ 少しくらい遅れても大丈夫だ。 ・ せっかく「ぼく」の番が来たのだから、もう少し遊ぼう。 ・ 昨日はみんなに迷惑をかけたから、やっぱり入ろう。 ・ 時間を守らないと授業の時間が少なくなってしまう。 ・ 時間に間に合ってよかった。 ・ やっぱりやめてよかった。 ・ 生活目標が守れたぞ。 ・ 時間に間に合うように、給食を食べている。 ・ バスの時間に間に合うように支度をしている。 ・ 友達との待ち合わせの時間を守った。	○ 資料を二つの場面に分けて提示する。 ○ がんばろうと思っている「ぼく」の気持ちに共感させる。 ○ 休憩時間の友達の会話を動作化し、臨場感を出す。 ○ ワークシートに書くことにより、遊びたい気持ちをがまんして時間を守ろうとしている主人公の気持ちに共感させる。 ○ 時間を守ることによって、自分だけでなくみんなもいい気持ちになったことをおさえる。 ○ 1日の自分の生活について、振り返らせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。	・ 時間を守ることは自分だけでなくみんなもいい気持ちになるんだな。	○ これからも規則正しい生活をしようとする意欲をもたせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、低学年の内容項目〔1－（1）〕「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」に基づき設定した。進んで自分の生活を見直し、思慮深く考えながら自らを節制していくことは、これから自己を確立して行く上で大切なことである。そのためには、こうしなければならないという型の指導ではなく、児童自身が内面から、そうすることが望ましいことだと自覚させることができるように、具体的な生活の場면을想定し、話し合わせていきたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

生活規律を身に付けさせる指導と関連させ、年度当初に扱うのもよい。

イ 資料の中心場面

中心場面では、休憩時間に夢中になっている遊びを途中で止めて、教室に入るかどうかを迷っている主人公の気持ちをしっかりと考えさせたい。資料を分割提示し、自分の打つ番が来たのに野球をやめて教室に入ることを迷っている「ぼく」が、この後どうしたのかについて想像させたい。また、その理由を話し合わせることで、時間を守ることの意義について考えさせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 資料提示の工夫

休憩時間に遊ぶことに夢中になっている主人公が、遊びを止めて教室に入るかどうか葛藤する場面を主人公の気持ちに添って考えさせるために、二つの場面に分けて資料提示を行うとよい。

イ 動作化の効果的な活用

児童の発達段階から考えると、休憩時間の友達の会話を動作化することで、遊びに夢中になっている様子をより豊かにイメージ化させ、「ぼく」の心情に気付かせたい。

ウ ワークシートの工夫

中心発問では、「ぼく」の気持ちやその後の行動について考えさせたい。その際にワークシートを活用し、「どうしよう。」という言葉の続きを書かせる活動を通して、「ぼく」の気持ちやその後の行動を考えさせたい。

エ 時間配分について

展開で四つの発問を計画しているが、中心発問にじっくり時間をかけるようにしたい。

(警固屋小学校 小松寿美代)